



# 小麦「きぬあかり」の生育予測技術を開発

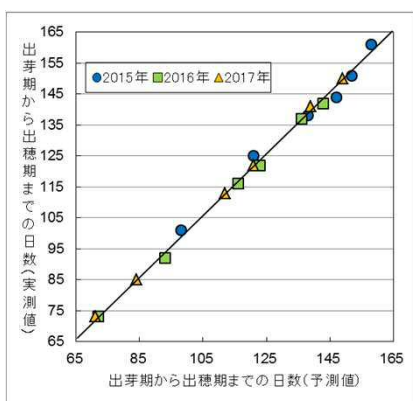
— 出穂期と成熟期の予測精度が向上します —

## 開発の背景・ニーズ

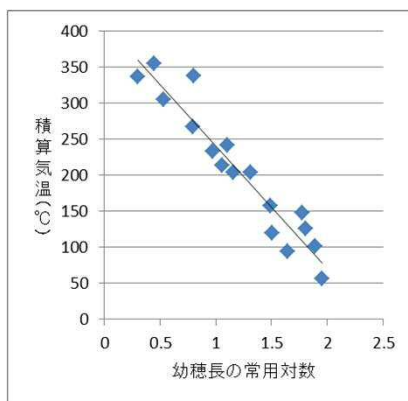
小麦の生育予測技術は、赤かび病の防除時期や適期収穫の判断、生育進度の年度比較などに活用されています。小麦「きぬあかり」に対しては「農林61号」の生育予測技術を準用してきましたが、予測精度が低く、現場からは「きぬあかり」に合わせた生育予測技術が求められていました。

## 成果の内容

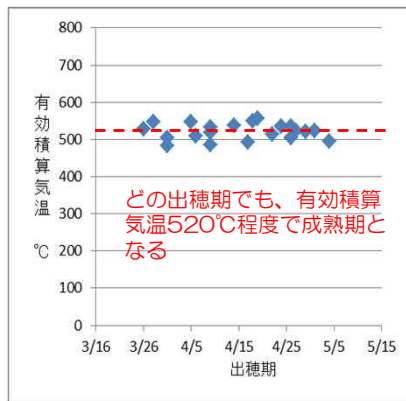
- 出穂期予測技術
  - ・ 発育指数（DVI）を用いた予測技術  
DVIを用いた「きぬあかり」の生育モデル式を開発し、出芽期とそれ以降の気温から出穂期を予測できる技術を確認しました。
  - ・ 幼穂長を用いた予測技術  
DVIを用いた予測技術は、極端な気象条件の場合には予測精度が低くなる可能性があることから、その補完技術として幼穂長から出穂期を予測できる技術を確認しました。
- 成熟期予測技術  
出穂期からの有効積算気温（「日平均気温 $-7^{\circ}\text{C}$ 」の積算）を用いることで、出穂期の早晩に影響を受けずに成熟期を予測できる技術を確認しました。



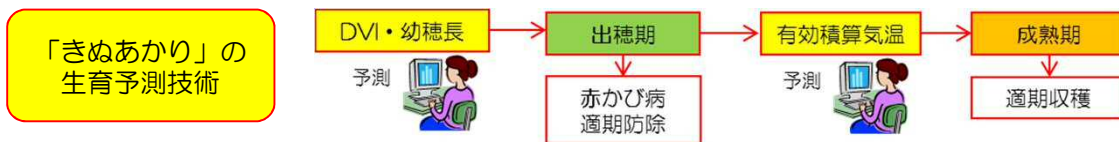
DVIによる予測値と実測値の比較



幼穂長と出穂期までの積算気温の関係



出穂期と出穂期から成熟期までの有効積算気温の関係



## 愛知県農業への貢献

- ・ 精度の高い出穂期予測により、赤かび病防除適期の指導に役立ちます。
- ・ 精度の高い成熟期予測により、適期収穫の指導に役立ちます。
- ・ 気温から出穂期と成熟期が予測できることから、ICTを活用した技術への応用が期待されます。